

新理事就任のご挨拶

一般財団法人 佐渡文化財団 理事長 笹本 芳廣

一般財団法人佐渡文化財団は、「佐渡の豊かな文化を守り、未来に引き継ぐとともに、文化資源の活用を通じ、生き活きた地域住民の暮らしの実現に寄与すること」を目的に、平成30年7月に設立され、貴重な伝統文化の継承・活用・発信を柱に事業を進めてまいりました。

一方で、事務処理手続きの不備や組織内マネジメントの欠如等により、多くの市民の皆さま、関係者の皆さまにご心配をおかけする結果となってしまいました。それを受け、昨年度には佐渡市並びに有識者の委員の皆様により、当財団の立ち位置と今後の方向性について検証していただきました。

その結論として、「文化財団には、佐渡の豊かな文化の保存・継承と活用を目指すことが必要であり、民間活力を活かした、市民と一体となった地域づくりを率先して進めていく役割が期待される」とのご指導をいただいたところです。

この度、当財団の理事が一新され、わたくし笹本が理事長を仰せつかることになりました。これまでの文化財団の運営により蓄積された人脈や知識などの財産を活かすとともに、これまでの反省点は教訓として新たな再出発にしたいと決意した次第です。

具体的には、取り組むべき事業の精選や組織・事務局体制の見直しを理事、評議員の役員と事務局間で行い、事業の目的や内容などについて情報を共有しながら進めていきます。また、監事から確認をしっかり受けていきます。その中で、「伝統文化の継承」が切迫した課題として認識しておりますのでしっかりと取り組んでいきたいと思っております。設立4年目となる今年度は、新しい出発の年ともいえます。当財団の果たすべき役割と使命を再確認し、市民・地域・行政をつなぐ組織に向け、足元の取組を一步一步着実に進めてまいります。

市民、関係機関・団体の皆様には、なお一層のご理解とご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。



佐渡人形芝居上演会を開催します

島内の人形芝居団体が一堂に会して人形芝居を披露する上演会を、7月18日に開催します。会場は、改修が完了した佐渡島開発総合センター3階ホールです。お誘いあわせのうえ、お越しください。

■佐渡人形芝居上演会

日時：令和3年7月18日（日）開場8：30 開演9：00

会場：佐渡島開発総合センター3階ホール

主催：一般財団法人 佐渡文化財団、佐渡人形芝居保存会

共催：佐渡市教育委員会（社会教育課佐渡学センター）

内容：佐渡の人形芝居の上演（文弥人形・説経人形・のろまん人形）

・運営協力費 1,000円

・事前申込、先着順。※定員120名に達し次第、締め切らせていただきます。

申込先 佐渡文化財団事務局 0259-58-9112（受付時間：月曜から日曜日 9:00～17:00まで）



～ 5月のできごと ～

■畑野小学校3年生が、「佐渡おけさ」を学びました。

5月14日、畑野小学校で佐渡おけさの踊りを学ぶ授業が行われました。3年生の指導にあたったのは、民謡団体「佐渡みどり会」の会員6名です。

会長の本間久雄さんは、「佐渡おけさは、『16足』という踊り方が基本で、踊る時には腕の位置が心臓より下がらないこと」や、「手を打つときは、目の高さまで手を挙げて打つこと。」など、踊る上で大切なポイントを児童たちに伝えていました。

この日は、地元の民謡クラブに所属している2人の児童も「みどり会」の会員に加わり、見本としてクラスの前で踊りを披露していました。

はじめは「難しい！」と声をあげていた児童たちですが、波を意識した手の動きや足さばきを身につけ、授業が終わる頃には、楽しそうにみんなで輪踊りをしていました。



～ 5月のできごと(つづき) ～

■地元の小・中学生と一緒に、「車田植」

5月19日、両津地区の北鶴島集落で、国の重要無形民俗文化財に指定されている「車田植」が行われました。「車田植」は、奈良時代から続いているといわれている豊作祈願の神事です。

全国的にも貴重な文化に触れようと、地元の内海府小中学校の児童・生徒が「田植え唄」の担当として参加しました。子どもたちは、昨年も参加しようと計画をたてていましたが、コロナウイルスの拡大が収まらず参加を断念しました。今年は予防を徹底して、「早乙女」さんたちが円状に苗を植え終わるまで、元気いっぱい練習してきた歌声を響かせました。

「車田植」を守り伝える北村佐市さんは、「今年は子どもたちのおかげで賑やかになり、見に来る人も多くて良かった」と笑顔で話していました。



▲車田植に参加した子どもたち

■七浦小学校で、達人に文弥人形について聞く

5月19日、七浦小学校で地域住民を対象にした学習会「ようこそ！佐渡の達人！シリーズ」が行われました。この取り組みは、学校を拠点にした地域づくりの推進を目的としており昨年度から始まりました。

第2回目となる今回は「文弥人形の歴史の解説と文弥人形芝居」をテーマに、講師は金井を拠点に人形芝居団体「常盤座」で活動している久保良子さんです。「佐渡の人形芝居」は、1977（S52）年5月17日に、国の重要無形民俗文化財に指定されました。

久保さんは、人形芝居を始めたころの思い出などを語り、最後に「孕常盤（はらみときわ）」という演目の弾き語りを披露しました。

参加した地域住民も、久保さんのお話を興味深く聞いていました。学校と協力してこの取り組みを企画した地域コーディネーターの岩本さんは、「今回のような活動を地域で行い、大人たちがそれを伝え、そして、子どもたちが色んなことに興味を持ってもらえたら。」と今後の企画にも意欲を見せていました。



▲講師の久保良子さん

■佐渡國鬼太鼓どっとこむ、開催

5月23日、両津おんでこドームで、「佐渡國鬼太鼓どっとこむ」が開催されました。昨年はコロナウイルスの影響で開催を断念しましたが、今回は消毒や検温などの感染対策を十分にとったうえで2年ぶりの開催となりました。

20周年を迎えた「鬼太鼓どっとこむ」には、メインの鬼太鼓に加えて民謡や大黒舞など12組の芸能団体が出演しました。また、20周年を記念して、これまでメインステージを飾ってきた北越高校書道部の作品が新たに掲げられました。

来場者は、コロナ禍で見る機会が少なくなった佐渡の芸能を待ってましたとばかりに、ステージで次々に披露される芸能を堪能していました。

実行委員会の齊藤勉会長は、「『伝えていく』ということが我々の役目だと思っている。みんなと一緒に先づ先祖から預かった宝物を繋いでいきたい」と話していました。



▲2年振りのステージ



▲湊木遺保存会の木遣で幕開け



▲20周年記念 北越高校書道部の作品



▲河原田諏訪神社氏子会

「秋津の菅笠製作技術」が、市の無形民俗文化財に指定

2021(令和3)年4月26日に、「秋津の菅笠製作技術」が佐渡市の無形民俗文化財に指定されました。この指定、佐渡市合併後としては初めてのことで、今回の指定で佐渡市の無形民俗文化財は15件となりました。

島民が農作業等の際に愛用している秋津の菅笠は、江戸期以降、島の中で唯一製作が認められていました。製作技術は他の集落に漏れないよう限られた人たちの間で継承されてきました。

市の無形民俗文化財への指定をうけ、6月7日に佐渡島開発総合センターで「秋津菅笠技術保存会」が文化財保持団体として認定されました。

指定書の交付式には、会長の池田雄彦さん、秋津古文書委員会の横地敏明さん、そして、唯一、菅笠技術の伝承者である佐藤タカ子さんが出席し新発田靖教育長から指定書を受け取りました。



▲ 秋津菅笠技術保全会のみなさん

また、同保存会は、新潟県文化財保護連盟が県内で文化財の保護・活用・啓発に尽力される個人や団体に対して表彰する「新潟県文化財保護功労者」にも選ばれ、6月10日に佐渡博物館で表彰されました。

なお、新潟県文化財保護功労者には、佐渡市から同保存会の他、佐渡の郷土資料を網羅した目録をまとめた北見継仁さん(泉)が表彰されました。

羽茂高校郷土芸能部を応援する会から、ご支援のお願い

羽茂高校郷土芸能部を応援する会では、羽茂高校郷土芸能部を支援する活動の一環として、羽茂高校郷土芸能部を応援する会の会員の皆様、同窓会や地域の皆様等に広く支援のお願いをしております。

郷土芸能部の生徒たちがより良い環境で活動していけるよう、活動環境の充実を図り、生徒たちの健全育成の一助となれればと考えております。なお、羽茂高校郷土芸能部は、生徒・教職員・地域が丸一となっており、日々の活動に一生懸命取り組んでおります。

生徒たちは日頃の練習の成果を遺憾なく発揮し、全国高等学校総合文化祭出場に加え、地元のイベントや福祉施設での発表をはじめ、県内外各地で演技を披露し、多くの方々から喜んでいただいております。

一方、三味線等の修繕費、衣装代、その他道具の整備代等の負担が大きくなり、その捻出が大きな悩みとなっております。つきましては、上記の主旨にご賛同いただける方は、羽茂高等学校のホームページ(※右下のQRコード)をご覧ください、ご協力をお願いいたします。



羽茂高校HP
QRコード



羽茂高校郷土芸能部を応援する会 会長代行 八尋 美幸

第5回 佐渡民謡の祝祭 開催決定！

今回で5回目となる「佐渡民謡の祝祭」が、8月22日(日)に開催することが決まりました。

テーマは、「つなぐ～佐渡の過去と未来を民謡で～」です。会場は、改修が終わるアミューズメント佐渡を予定しています。

出演団体やプログラムなど、詳細が決まり次第、内容を発信していきますので楽しみにおまちください。



考察 コロナウイルスが島の芸能に与えている影響

新型コロナウイルスの感染拡大により、昨年から佐渡の多くの芸能の開催が見送られてきています。今年に入って、対策を十分に取しながら薪能や宵の舞などの芸能事業が徐々に開催され始めています。

創刊号で島の春祭りに向けて、対策や工夫しながら実施をした鬼太鼓保存会を紹介しましたが、コロナの影響を受けて「鬼太鼓を実施するか、しないか」の判断は保存会によって様々で大きく①対策を講じながら例年通りの内容で実施した保存会、②縮小しながらも工夫しながら実施した保存会、③実施の断念をした保存会に分けられます。

①のケースであっても、実施に向けた話し合いでは、かなりの検討時間を割いたと伺っています。また、②のケースでは、「集落内に『門付け』を希望するかどうかのアンケートの実施」、「オンライン配信」、「飲食の禁止」など例年通りにいかない部分はあるにせよ、何とか鬼太鼓を舞うこと実施していこうという姿勢を見せている保存会は多くありました。

③のケースについては、さらに状況が異なるようです。コロナ禍の前から活動が困難であった保存会、意見がまとまらなかった保存会、何とか縮小して実施できそうだが、隣接している集落に配慮して断念した保存会など、様々なケースがあるそうです。

コロナウイルスは、別の問題も佐渡の芸能伝承に投げかけています。経費と実技の問題です。縮小開催したものの、祭りの門付けを行えずに保存会の貯えが減少している事態、1年ないし2年の間が空いてしまい、いざ舞おうとした時に本来の動きができなくなってしまう現象などを心配する関係者の声を伺っています。

そもそも芸事自体が「密」によって成り立っている部分が多いことから、「三密」を避けることにより芸能の醍醐味が失われてしまうこともなど悩みの種はつきないようです。まだまだ、コロナ禍の終息が見えない中で、どのような形で芸能をつないでいくか、という関係者の悩みの種はつきません。



鬼太鼓の実施状況(R3.6.30現在)

	2020	2021
通常実施	5	8
縮小	24	22
中止	76	13

※財団で確認済の件数

佐渡の芸能を後世へ ～ご寄付・ご支援のお願い～

島に響く太鼓の音、島民の笑顔、子どもたちの輝く目、佐渡の日常には文化・芸能が密接に関わっています。

この日常が次世代へ続くように当財団では、佐渡文化の継承・保存活動に取り組んでおります。

ご賛同いただける方のご支援をお願いしております。詳しくは下記QRコードからホームページをご覧ください。



○和楽器を貸し出しています。和音に触れてみませんか。

○民謡など語り、指導にあたる講師を派遣しています。

○民謡や鬼太鼓などで培われた民芸品などのアイテムを通信販売しています。

